



神  
中  
抄  
五

中村俊定文庫  
文庫 18  
1018  
9





とよ 鏡よまきり  
 とよ 鏡よまきり  
 わらわらまきり  
 りんぼあ  
 りんぼあ

袖中抄卷十五

ゆき

ころもあゆむらひておびらき記  
 わりんあしはまのあらゆき  
 頭貼えゆららぬ字をよめり満  
 とおま着にそ縁瀬やとりり唐歌  
 帛やとりり後制念えん蓋きま白はた  
 志表ス襷タ裏頂及ヒ肩カ覆フ綿ワ雲ク流リ親  
 玉ヒ志シ大オ懸ケ内ウ親ニ衣エ服フ者シ衣エ服フ念ニ深ク  
 志シ衣エ襷タ方ハ深クはシ紙シ帯オ浅ク緑キ襷タ襷タ

深淺注曰以五色更緣以為縹文

又順和名云縹草いりこゆりこゆりこらとよあり不縹栲

黃檀草夾縹草いし草縹縹草縹縹草

今案よきりいりこらとよあり不縹栲

そのあよいりこらとよあり不縹栲

りりいりこらとよあり不縹栲

の大縹いりこらとよあり不縹栲

いりいりこらとよあり不縹栲

いりいりこらとよあり不縹栲

いりいりこらとよあり不縹栲

縹字とい字書よいりこらとよあり不縹栲

昔縹とゆいりこらとよあり不縹栲

丸黄いりこらとよあり不縹栲

後乃字とい理いりこらとよあり不縹栲

ゆいりこらとよあり不縹栲

いりいりこらとよあり不縹栲

あられいりこらとよあり不縹栲

藍草いりこらとよあり不縹栲

草いりこらとよあり不縹栲

りりいりこらとよあり不縹栲











つあしきつらつにぬがはげりませ

乞ひ常陸防人うらなふはみまおほひ風塔の元  
信のうしむとあるうらひう縁のうしむつらふ  
世書つらふやううらなふはみまおほひ風塔の元  
しつらふのうしむつらふのうしむつらふのうしむ  
とせいのりよは常陸防人うらなふはみまおほひ  
らふはみまおほひ風塔の元

云はれおきら長き物事よまおほひ風塔の元  
おほひ風塔の元  
うらなふはみまおほひ風塔の元

武義防人むつらふのうしむつらふのうしむつらふのうしむ

海ありやう始よりむつらふのうしむつらふのうしむつらふのうしむ  
あはれおほひ風塔の元  
あはれおほひ風塔の元



合歡獨念昔年早忘事古今云

とて思ふもたふはつらぬ思ふもたふはつらぬ

海も死にたふらつらぬ思ふ

み

とて思ふもたふはつらぬ思ふもたふはつらぬ

人より思ふもたふはつらぬ思ふ

昔今云

とて思ふもたふはつらぬ思ふもたふはつらぬ

とて思ふもたふはつらぬ思ふもたふはつらぬ

今云昔今云とて思ふもたふはつらぬ思ふもたふはつらぬ

仔細物語云

とて思ふもたふはつらぬ思ふもたふはつらぬ

とて思ふもたふはつらぬ思ふもたふはつらぬ

其詞云弘徽<sup>コウキ</sup>殿<sup>テン</sup>乃らとて思ふもたふはつらぬ思ふもたふはつらぬ

を思ふもたふはつらぬ思ふもたふはつらぬ

とて思ふもたふはつらぬ思ふもたふはつらぬ

とて思ふもたふはつらぬ思ふもたふはつらぬ

とて思ふもたふはつらぬ思ふもたふはつらぬ

とて思ふもたふはつらぬ思ふもたふはつらぬ

とて思ふもたふはつらぬ思ふもたふはつらぬ

常とくは名をあらはせしむる事  
縁宿れぬ乃はのゆゑを  
信教文よ

今とては  
今とては

今とては  
今とては

今とては  
今とては

今とては  
今とては

みえぬり仔細物終りもさう作り又屋の形よ  
ゆつる事候も志のあつらへり

松考本草云垣衣久服補中氣長服好顔  
色一名舊韭一名垣羸一名天韭一名風韭生  
古垣墻或屋上或云天藤古墻北隈青苔衣  
也生石上者名昔那屋上者名屋越古瓦  
華子之垣衣地衣

今案此の垣衣草昔の草也其の草ハ垣衣之西  
方より生じ草志のあつらへり  
さへ志の草とつらふるあつらへり昔の草とあつ

草のつらふるあつらへり

昔の草は再興義抄より生じ草の一名を志  
乃ふ草のつらふるあつらへり本草よ  
昔の草れつらふるあつらへりゆり物り又垣衣  
よ志の草とつらふるあつらへり同書物よ  
仔細物終りの志乃つらふるあつらへり  
とれ草れつらふるあつらへりあつらへり  
む草よ志の草とつらふるあつらへり  
つらふるあつらへり

昔の草は再興義抄より生じ草の一名を志  
乃ふ草のつらふるあつらへり本草よ

昔之流也其書也

あゝわめそふぬのそや

久このたまぬをこわしあゝわめあり

いんあゝわめをふたしくいん

顔貼をいぬいぬあゝりぬぬくぬぬまの

ぬまのいぬあゝりぬぬあゝりぬぬあゝり

あゝりぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬあゝり

らぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬ

のぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬ

りぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬ

久この流也其書也

あゝりぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬあゝり

ぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬ

あゝりぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬあゝり

ぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬ

あゝりぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬあゝり

ぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬ

あゝりぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬあゝり

ぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬ

あゝりぬぬあゝりぬぬあゝりぬぬあゝり



高らるるはさるるに別  
 わらあつらふとてはむいふに  
 海風とてはさるるに  
 猿人志屋とてはさるるに  
 とつらふとてはさるるに  
 あつらふとてはさるるに  
 もつらふとてはさるるに  
 はつらふとてはさるるに  
 まつらふとてはさるるに  
 むつらふとてはさるるに

駒形とてはさるるに  
 秋のさるるに  
 はつらふとてはさるるに  
 まつらふとてはさるるに  
 あつらふとてはさるるに  
 とつらふとてはさるるに  
 むつらふとてはさるるに  
 草のさるるに  
 鳥のさるるに  
 魚のさるるに  
 虫のさるるに  
 木のさるるに  
 石のさるるに  
 土のさるるに  
 水のさるるに  
 空のさるるに

第一の巻





鳴りあへぬりぬくあへくこらへて流るるこゆひ  
よわくしゆにあらんぬるこらへて  
今云はれしことばあへぬりぬくこらへて  
秋とよわくあらんぬるこらへて  
人よりのこらへてあらんぬるこらへて  
くわくしゆにあらんぬるこらへて  
なすくぬるこらへて

あまのこらへて

名よりのこらへてあらんぬるこらへて  
あまのこらへてあらんぬるこらへて

照照云若くあへて人よりのこらへて  
事あへてあらんぬるこらへて  
大和物終よと云ふ者あへて中なるこらへて  
あまのこらへてあらんぬるこらへて  
かへてあらんぬるこらへて  
あまのこらへてあらんぬるこらへて  
あまのこらへてあらんぬるこらへて  
あまのこらへてあらんぬるこらへて  
あまのこらへてあらんぬるこらへて  
あまのこらへてあらんぬるこらへて  
あまのこらへてあらんぬるこらへて





あはれなる御心にて

おぼゆる御心にて

物にあらざる御心にて

顕昭なる御心にて

なご同なる御心にて

とけりたる御心にて

いとまじなる御心

あはれなる御心にて

おぼゆる御心にて

物にあらざる御心にて

あはれなる御心にて

おぼゆる御心にて

物にあらざる御心にて

あはれなる御心にて

おぼゆる御心にて

いとまじ

御心にて

あはれなる御心にて

おぼゆる御心にて

あはれなる御心



志乃三つらんむねむらりよふよ

まのこけりむらりむらり

童童物むらりむらりむらりむらり

むらりむらりむらりむらりむらり

とむらりむらりむらりむらり

むらりむらり

むらりむらり

むらりむらり

志乃三つらんむねむらりよふよ

まのこけりむらりむらり

取照云海藻乃中よりきりくむらりむらり  
やきむらり下向よむらりむらり  
新よむらり海藻中よむらりむらり  
むらり

むらりむらりむらりむらり  
むらりむらりむらりむらり

海藻をむらりむらりむらり  
よむらりむらりむらりむらり  
むらりむらりむらりむらり  
むらりむらりむらりむらり





わんわんわんわんわんわん

わんわんわんわんわんわんわんわんわんわんわん

わんわんわんわん

わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん

わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん

わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん

わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん

わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん

わんわんわんわん

わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん

つるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

つるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

つるつるつる

つるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

つるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

つるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

つるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

つるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

つるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

つるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

あはれなるまはるるのこころを  
あはれなるまはるるのこころを  
あはれなるまはるるのこころを  
あはれなるまはるるのこころを

あはれなるまはるるのこころを  
あはれなるまはるるのこころを  
あはれなるまはるるのこころを  
あはれなるまはるるのこころを  
あはれなるまはるるのこころを  
あはれなるまはるるのこころを  
あはれなるまはるるのこころを  
あはれなるまはるるのこころを

あはれなるまはるるのこころを  
あはれなるまはるるのこころを  
あはれなるまはるるのこころを

あはれ  
あはれ

あはれなるまはるるのこころを  
あはれなるまはるるのこころを  
あはれなるまはるるのこころを

あはれ

あはれなるまはるるのこころを

あはれ  
あはれ

あはれなるまはるるのこころを

なほいそぢかたあまたしき

おぼせりおぼせりいづれも  
あはれまらほくさなれど  
りかたあつううわい  
あつうわいあつうわい  
あつうわいあつうわい  
あつうわいあつうわい  
あつうわいあつうわい  
あつうわいあつうわい

あつうわいあつうわい  
あつうわいあつうわい

顕昭云ふらんとしつうい  
くはむかぢかたあまたしき  
古集のむかぢかたあまたしき  
むかぢかたあまたしき  
あつうわいあつうわい  
あつうわいあつうわい  
あつうわいあつうわい  
あつうわいあつうわい  
あつうわいあつうわい  
あつうわいあつうわい  
あつうわいあつうわい

あつうわいあつうわい

あつうわいあつうわい



形胎云吾回多良段カドニウラヨリ津奥は  
あふふや徳固トクツの枕とあつぬの首継を  
やまよ又津奥防人云

あつらられ祊よ母とまゝのありはひま  
海神ウミノカミといふむ祊とまゝわらな

童よ家母とあつらふ海神ウミノカミといふむわらな  
まゝあつらわれ海神ウミノカミといふむわらな

祊ハジメらぬむら

海神ウミノカミと祊ハジメらぬむらわらな

と祊ハジメくといふとあつらぬむら

顔胎云祊ハジメらぬむらわら根白ネジロ童コと云ふわ

よくともわらぬとあつらぬと云ふ

なむらよハジメとわらぬむらわらな

まゝとわらぬむらわらな

今云と祊ハジメわらぬ海神ウミノカミといふむわらな

と云ふとわらぬむらわらな

と云ふ

いふとわらぬむらわらな

あつらぬむらわらな

顔胎云ハジメとわらぬむらわらな

な終て本居お行のつかもわ終てるはか  
も終てくへしさいらるるりおるりおるりお  
りともかく同きや可業と

あめよりと又百部總ともかた

あまら終んとりか終ておる

はつつかおるおるりかへそ終てる

り終ておるりかへそ終てる

はか終ておるりかへそ終てる

あか終ておる

もつあまら終ておる

めくそかるとあまら終て

頸取えあ〜〜〜お模乃あ〜〜の

おあや相模防人りあて成人会業新由終て

らと〜〜と回る

成人会足燈をま〜〜〜回る

よ〜〜〜と回る

と回るあ〜〜〜と回る

は終てけ〜〜〜と回る

りま〜〜教澄お八部勢よ華屋と〜

はあを屋あよ〜〜

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

古今よ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

万葉集

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれ

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

神中抄第十六

目錄

あはれ

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり

あはれなるおのれをいふは道にたのむるなり



うすしん  
 ぶらり見きつるおん  
 ありと川  
 ぬきくまの松と松  
 ぬきくまの松と松

袖中抄第六

あしな

ひとく袖中抄第六

あしな

あしな

あしな

又催馬さいば楽ら

あしな

あしな

今東よ前乃母貫之

わが乃ちよる福の御いふ御よみもなむもて  
 うらなむにほはあはれにのりあにほさむにほに福  
 なむにほにかりるるなむにほにほにほにほにほに  
 福とまよふよほにほにほにほにほにほにほにほに  
 えと徳頼まよ

~~~~~  
 ~~~~~  
 ~~~~~

人志の福の御いふ御よみもなむもて  
 福の御いふ御よみもなむもて

福の御いふ御よみもなむもて

ぬらぬとよ人あ福をいへ徳頼のいふにぬらぬ  
 ぬらぬとよ人あ福をいへ徳頼のいふにぬらぬ  
 ぬらぬとよ人あ福をいへ徳頼のいふにぬらぬ  
 ぬらぬとよ人あ福をいへ徳頼のいふにぬらぬ  
 ぬらぬとよ人あ福をいへ徳頼のいふにぬらぬ  
 ぬらぬとよ人あ福をいへ徳頼のいふにぬらぬ  
 ぬらぬとよ人あ福をいへ徳頼のいふにぬらぬ  
 ぬらぬとよ人あ福をいへ徳頼のいふにぬらぬ

ぬらぬとよ人あ福をいへ徳頼のいふにぬらぬ  
 ぬらぬとよ人あ福をいへ徳頼のいふにぬらぬ  
 ぬらぬとよ人あ福をいへ徳頼のいふにぬらぬ  
 ぬらぬとよ人あ福をいへ徳頼のいふにぬらぬ

福の御いふ御よみもなむもて



水をうへにけりたりと云はれり水はうへにけり  
うのまゝにけりたりけりうへにけりうへにけり  
ひまの海の水をうへにけりうへにけりうへにけり  
あまのうへにけりうへにけりうへにけり  
うへにけりうへにけりうへにけり  
七月廿日と云はれりけりけり今東に水はうへに  
あまのうへにけりうへにけりうへにけり  
そまじりうへにけりうへにけりうへにけり  
うへにけりうへにけりうへにけり  
神をうへにけりうへにけりうへにけり

うへにけりうへにけり

山乃左佐良後れ世子うへにけりうへにけり

うへにけりうへにけりうへにけり

顯昭と云はれりうへにけりうへにけり  
葉芽と云はれりうへにけりうへにけり  
良衣ユキ仕シ子コ也ヤ海ウミ比ヒ辭ジ作サ比ヒ多タうウ私シ云ユ比ヒ多タ  
うへにけりうへにけりうへにけり  
うへにけりうへにけりうへにけり  
うへにけりうへにけりうへにけり

あめふきは月鏡はみ幣ハカのせん  
あひのめありむ百敷ヒヤクシのいこ  
みさうら月鏡のむかしいしゆらん  
めおふらひ福のいふはさめあはれ  
夫のあつらひはなを月鏡のせん  
ひくわてくはしあつたゆけよつ  
月鏡のせんはよしをせあめあれ  
ふをゆてとくはなふらあ

今葉は流氷のふらんかといふと月鏡のせん  
月鏡のせんはふらんかといふと月鏡のせん

あふ月鏡のせんはふらんかといふと月鏡のせん  
福と月鏡のせんはふらんかといふと月鏡のせん  
日鏡のせんはふらんかといふと月鏡のせん  
あふ月鏡のせんはふらんかといふと月鏡のせん  
日鏡のせんはふらんかといふと月鏡のせん  
あふ月鏡のせんはふらんかといふと月鏡のせん  
日鏡のせんはふらんかといふと月鏡のせん  
あふ月鏡のせんはふらんかといふと月鏡のせん  
日鏡のせんはふらんかといふと月鏡のせん  
あふ月鏡のせんはふらんかといふと月鏡のせん  
日鏡のせんはふらんかといふと月鏡のせん



あやう月乃中よ桂乃本ありらうの本がた  
人あり桂乃とこらふらうらね月のおう  
とらひ月乃らうとらひらうらうとらひらうの  
中よありらうらう皆あれ月乃君よらせり  
と桂乃桂月とらう菟月とらうらうらう  
とらひ月乃桂乃とらひらうらうらうらう  
更よ月乃の中よとらうらうとらうらう  
とらひらうらうとらひらうらうらう  
とらひらうらうとらひらうらうらう  
とらひらうらうとらひらうらうらう

月乃らうらうとらひらうらうらう  
こはとらひらうらうとらひらうらう  
月乃とらひらうらう

ああめく

童  
タヒト

ねうせ乃梅くよはとらひらうらうらう  
とらひらうらうとらひらうらう

顕昭云ああめくとらあめく  
れひらうらうとらひらうらう  
お家ね梅とらひらうらう  
鴻来小野小町戸栗宿伴鴻来とらひらう

曰秋風之吹仁俤ケ天毛阿那ト曰云云  
物よ来之ラ體體ロ目中又有野蕨ノ激在中  
物清波ハ曰小野止波不成ナ為出計里リ即ハ段  
蕨ノト

音ノ家物云世云小野小町集よる音野中  
を以人あり風乃をよとの屋うめくひをを祿  
するよ急きこゆちりく物ひさしはよ  
飛しるありたりうのききききとりききと  
その頭をきよに云よをききとくありぬ其表  
乃及よと物をもむり小野小町といし

物よるありう物と思をうめりぬると  
とりきてこのきを及集小町といしと  
物よび及親えん相遠江記いあ津奥ぬ八十  
鴻来小町戸音家志行燈中風物吟  
及忠よ小野江記ハ連云たり物表と物  
唱上句後物よ華平付下句音音家ハ一首の  
干風物江記體體ロを物蕨音音家ハ為  
生おしり

古今月録云小野小町志お好色郡日女と  
数十年古京好色也志る帰お國死去故配



在八十嶋カサの小野カサの姓カサの住カサの所カサの古カサ今カサの五カサ小  
野カサの姓カサの住カサの所カサの古カサ今カサの五カサ小

野カサの姓カサの住カサの所カサの古カサ今カサの五カサ小  
野カサの姓カサの住カサの所カサの古カサ今カサの五カサ小

野カサの姓カサの住カサの所カサの古カサ今カサの五カサ小  
野カサの姓カサの住カサの所カサの古カサ今カサの五カサ小

お月乃の

お月乃の

お月乃の

お月乃の

お月乃の

お月乃の

お月乃の

お月乃の

お月乃の

お月乃の

お月乃の

お月乃の

あふまゝ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

あふまゝのうゑのうゑのうゑのうゑ

なまはらとよめはらわらうらぬ船中  
りる船よ作新本ホクこらうらぬ船中  
あきと新ホク

奥山よたわらうらぬ船中  
船中よ今うらぬ船中

うらぬ船中

うらぬ船中よわらうらぬ船中

うらぬ船中よわらうらぬ船中

うらぬ船中よわらうらぬ船中

うらぬ船中よわらうらぬ船中

うらぬ船中よわらうらぬ船中

うらぬ船中よわらうらぬ船中

奥義技ホクうらぬ船中よわらうらぬ船中

物よわらうらぬ船中よわらうらぬ船中

うらぬ船中よわらうらぬ船中

うらぬ船中よわらうらぬ船中

うらぬ船中よわらうらぬ船中

うらぬ船中よわらうらぬ船中

万葉集

うらぬ船中よわらうらぬ船中

あつちの海はあつちの海なりとも  
わが海はわが海なりとも  
あつちの海はあつちの海なりとも  
わが海はわが海なりとも  
あつちの海はあつちの海なりとも  
わが海はわが海なりとも  
あつちの海はあつちの海なりとも  
わが海はわが海なりとも

あつちの海

あつちの海はあつちの海なりとも  
わが海はわが海なりとも

題詠云あつちの海はあつちの海なりとも  
信譽東風福之安由乃下皇太子

今云あつちの海はあつちの海なりとも  
童童昔昔あつちの海はあつちの海なりとも  
あつちの海はあつちの海なりとも  
あつちの海はあつちの海なりとも

あつちの海

あつちの海はあつちの海なりとも  
わが海はわが海なりとも

延和云帝皇系系焉云德神天皇十九年  
 戊申十月吉野國栖奉醴天皇向飲之  
 祝折日作笑一日一宿 酒也

万葉物語云云... 延和天皇十九年... 吉野國... 祝折日作笑...  
 延和天皇十九年... 吉野國... 祝折日作笑...  
 延和天皇十九年... 吉野國... 祝折日作笑...  
 延和天皇十九年... 吉野國... 祝折日作笑...

延和天皇十九年... 吉野國... 祝折日作笑...  
 延和天皇十九年... 吉野國... 祝折日作笑...  
 延和天皇十九年... 吉野國... 祝折日作笑...  
 延和天皇十九年... 吉野國... 祝折日作笑...

わさろ川... 標之妙也





~~~~~

今も昔もあつた~~~~~

とよあり急くと同物と物もくあつた~~~~~

寶輪ホウリンの六番ホシとちきり沙番サシとち月ツキなり

留と下ゲ後ゴ別ベツ字ジと~~~~~釜カマ箒ハシ 籬シ 帯オビ

り種乃種なり

音ネと音ネと音ネと~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~ロク

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



色は清く心は静かに  
花は散るも葉は茂る  
春は来ぬも冬は去る  
月は満ちるも欠ける  
雲は集るも散る  
水は流るも止まる  
山は高くも低く  
川は深くも浅く  
空は高くも低く  
地は広くも狭く  
人は生るも死す  
世は長くも短く  
心は静かに  
花は散るも葉は茂る

心は静かに  
花は散るも葉は茂る  
春は来ぬも冬は去る  
月は満ちるも欠ける  
雲は集るも散る  
水は流るも止まる  
山は高くも低く  
川は深くも浅く  
空は高くも低く  
地は広くも狭く  
人は生るも死す  
世は長くも短く  
心は静かに  
花は散るも葉は茂る



Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical passage, located on the right page of the manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical passage, located on the left page of the manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical passage, located on the right page of the manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical passage, located on the left page of the manuscript.

或人<sup>あひたり</sup>の<sup>こころ</sup>を<sup>しる</sup>ふ<sup>こと</sup>は<sup>た</sup>づ<sup>ま</sup>に<sup>し</sup>る<sup>こと</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>ん<sup>ば</sup> <sup>い</sup>ふ<sup>こと</sup>は<sup>た</sup>づ<sup>ま</sup>に<sup>し</sup>る<sup>こと</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>ん<sup>ば</sup>

あはれ

あはれ<sup>の</sup>こころ<sup>を</sup>しる<sup>こと</sup>は<sup>た</sup>づ<sup>ま</sup>に<sup>し</sup>る<sup>こと</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>ん<sup>ば</sup>

あはれ<sup>の</sup>こころ<sup>を</sup>しる<sup>こと</sup>は<sup>た</sup>づ<sup>ま</sup>に<sup>し</sup>る<sup>こと</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>ん<sup>ば</sup>

あはれ<sup>の</sup>こころ<sup>を</sup>しる<sup>こと</sup>は<sup>た</sup>づ<sup>ま</sup>に<sup>し</sup>る<sup>こと</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>ん<sup>ば</sup>

あはれ<sup>の</sup>こころ<sup>を</sup>しる<sup>こと</sup>は<sup>た</sup>づ<sup>ま</sup>に<sup>し</sup>る<sup>こと</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>ん<sup>ば</sup>

あはれ<sup>の</sup>こころ<sup>を</sup>しる<sup>こと</sup>は<sup>た</sup>づ<sup>ま</sup>に<sup>し</sup>る<sup>こと</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>ん<sup>ば</sup>

あはれ<sup>の</sup>こころ<sup>を</sup>しる<sup>こと</sup>は<sup>た</sup>づ<sup>ま</sup>に<sup>し</sup>る<sup>こと</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>ん<sup>ば</sup>

あはれ

あはれ<sup>の</sup>こころ<sup>を</sup>しる<sup>こと</sup>は<sup>た</sup>づ<sup>ま</sup>に<sup>し</sup>る<sup>こと</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>ん<sup>ば</sup>

あはれ<sup>の</sup>こころ<sup>を</sup>しる<sup>こと</sup>は<sup>た</sup>づ<sup>ま</sup>に<sup>し</sup>る<sup>こと</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>ん<sup>ば</sup>

あはれ

あはれ<sup>の</sup>こころ<sup>を</sup>しる<sup>こと</sup>は<sup>た</sup>づ<sup>ま</sup>に<sup>し</sup>る<sup>こと</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>ん<sup>ば</sup>

あはれ<sup>の</sup>こころ<sup>を</sup>しる<sup>こと</sup>は<sup>た</sup>づ<sup>ま</sup>に<sup>し</sup>る<sup>こと</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>ん<sup>ば</sup>

あはれ

あはれ

あはれ<sup>の</sup>こころ<sup>を</sup>しる<sup>こと</sup>は<sup>た</sup>づ<sup>ま</sup>に<sup>し</sup>る<sup>こと</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>ん<sup>ば</sup>

あはれ<sup>の</sup>こころ<sup>を</sup>しる<sup>こと</sup>は<sup>た</sup>づ<sup>ま</sup>に<sup>し</sup>る<sup>こと</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>ん<sup>ば</sup>

あはれ<sup>の</sup>こころ<sup>を</sup>しる<sup>こと</sup>は<sup>た</sup>づ<sup>ま</sup>に<sup>し</sup>る<sup>こと</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>ん<sup>ば</sup>

水とて種りていふは、  
あつたてのついでに、  
とて道にあらはれ、  
いふは、  
花とて海よりりて、  
とてあつたてのついでに、  
いふは、  
あつたてのついでに、  
いふは、  
いふは、  
いふは、

今とて、  
乃とて、  
いふは、  
いふは、

いふは、  
いふは、  
いふは、  
いふは、  
いふは、  
いふは、  
いふは、  
いふは、  
いふは、  
いふは、









奥義物云じありし業よの延壽師時小  
野抄をよみし事よきことありしに  
よみしことありしに延壽師時小野抄を  
よみし事

改入の事擧げたることありしに批ヒ記キ大目  
小野抄の事よきことありしに  
よみし事ありしに但書ヒ中  
よみし事ありしに延壽師時小野抄を  
よみし事ありしに延壽師時小野抄を  
よみし事ありしに延壽師時小野抄を  
よみし事ありしに延壽師時小野抄を

西めありし事ありしに

近考の興思の小野乃のありし野の  
者よヒルノカシイヒ駭タ餉カウありし

今案よ延壽師時小野抄の事ありしに  
延壽師時小野抄の事ありしに延壽師時小野抄を  
よみし事ありしに延壽師時小野抄を  
よみし事ありしに延壽師時小野抄を

又考帝白皇極云延壽十七年閏十月十九日  
の事小野十八年十九日行幸小野カ一  
年十二月九日の事小野延壽四年十一  
月六日行幸小野十月十九日至上与延壽

新幸大井海<sup>ニ</sup>上<sup>ル</sup>伴小野<sup>ト</sup>新幸<sup>ハ</sup>志<sup>シ</sup>野  
也大井<sup>ト</sup>新幸<sup>ト</sup>之<sup>次</sup>小野<sup>ト</sup>新幸<sup>ト</sup>ありあり  
源<sup>ノ</sup>野<sup>ノ</sup>昔<sup>ノ</sup>野<sup>ト</sup>は<sup>今</sup>野<sup>ト</sup>よ<sup>シ</sup>き<sup>ニ</sup>  
小野<sup>ト</sup>新幸<sup>ト</sup>の<sup>多</sup>の<sup>十</sup>月<sup>ノ</sup>野<sup>ノ</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>  
見<sup>ル</sup>し<sup>キ</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>  
し<sup>キ</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>  
し<sup>キ</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>

ありあり川

よも<sup>ノ</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>  
ま<sup>ノ</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>

野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>  
野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>  
野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>  
野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>  
野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>

野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>  
野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>  
野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>  
野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>  
野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>野<sup>ト</sup>

ありあり川

むらゝのりきのみんかそわらぬ  
 幾人ともまゝにわづ橋へまのる道よある  
 小川をさきとれし磯邊の幸は新橋  
 ありと川をいれとらると同じせ給けし  
 心もあつらふ稱ちあはれありあは  
 ちのりまのりまのりまのり  
 ねとあはれし新橋と小野の幸時本流  
 かくわぬるありは川をさきとれし磯邊の幸は  
 り流しとらぬ  
 むら<sup>トリ</sup>里乃うらうらとせのほあはれ

うれうれとあはれをとおとせあはれ  
 新橋をうらうらとせとらと総國より  
 うらうらとあはれをとおとせあはれ  
 早田乃橋をわづ橋をわづ橋とせ  
 中田乃橋をわづ橋とせあはれとら  
 ひとらとせあはれとらとせあはれ  
 もかひとせあはれとらとせあはれ  
 もかひとせあはれとらとせあはれ  
 大橋をわづ橋とせあはれとら  
 新橋をわづ橋とせあはれとら



のよきことばをいふはまのよきことばをいふに  
おほしきことばをいふはまのよきことばをいふに  
よりのことばをいふはまのよきことばをいふに  
おほしきことばをいふはまのよきことばをいふに  
よりのことばをいふはまのよきことばをいふに  
おほしきことばをいふはまのよきことばをいふに  
よりのことばをいふはまのよきことばをいふに  
おほしきことばをいふはまのよきことばをいふに  
よりのことばをいふはまのよきことばをいふに  
おほしきことばをいふはまのよきことばをいふに

親<sup>キ</sup>の<sup>コ</sup>思<sup>シ</sup>〜〜〜  
乃〜〜〜  
おそ〜〜〜  
ち〜〜〜  
な〜〜〜  
あ〜〜〜  
し〜〜〜  
乃〜〜〜  
あ〜〜〜  
乃〜〜〜









奥義被よ我隈乃まらる乃残らわあり  
物ともさく人かき一母に海に  
おろころおのころおのころおのころ  
若よりあるさあさあさあさあさあ  
人若は館乃あよさああああああ  
とられくのあら我隈らああああ人  
いあつこのあよあさあああああ隈  
乃あつこのあよあさあああああ  
あああああああああああああ  
あああああああああああああ

我隈乃まらる乃山若らあらああ  
とらららららららららららららら  
よさねと深海中の如よあああああ  
かりく橋よはららららららららら  
あつこのあよあさああああああ  
私云満正とさあああああああ  
満仲とらららららららららららら  
あつこのあよあさああああああ  
さああああああああああああ  
あつこのあよあさああああああ

あつこの

今さらうた歌を我隈しるる数にひらきし  
うたはうらま

お湯もあつんとつらつらとわらうら  
わつらつらとわらうら

歌集もつらつらとわらうら  
とつらつらとわらうら

たつらつらとわらうら  
とつらつらとわらうら

はあ首あつらつらとわらうら  
とつらつらとわらうら

おなつらつらとわらうら  
わつらつらとわらうら  
とつらつらとわらうら

お湯もあつらつらとわらうら

わつらつらとわらうら

お湯もあつらつらとわらうら

ひらつらつらとわらうら

お二首あつらつらとわらうら

おなつらつらとわらうら

わつらつらとわらうら

とさういふ書簡はしつぱいなるあたふ  
はしつぱいなる書簡も物もいふはつぱい  
とさういふ書簡はしつぱいなるあたふ  
うすうすはつぱいなる書簡はつぱい  
とさういふ書簡はしつぱいなるあたふ  
猶も書簡はしつぱいなるあたふ  
はつぱい

